

鞍手地区点検評価委員会の意見書

令和 7 年 11 月 14 日

宮若市教育委員会 殿

点検評価委員会

委員 福岡教育大学教授 豊島 啓司

委員 宮若市 下田 和子

委員 鞍手町 石松 和彦

委員 小竹町 谷川 龍児

令和 6 年度の貴教育委員会の運営状況について、点検及び評価をしましたので、別紙
のとおり意見を報告いたします。

(別紙)

	点検及び評価に関する委員会の意見
開催状況 教育委員会の	<p>○ 委員会の運営及び委員活動については、概ね良好に実施運営されている。</p>
教育施策の主要施策の状況	<p>○探究型の学習の基調転換を図るためには、管理職や教務主任レベルでの情報共有が不可欠。管理職や管理職体制、そして教育行政がその方向に向いていなければ、現在の教育課程が広まらないことが懸念される。実際に探求型の授業改善を実施している先生を招き、ワークショップ形式を用いて同じ目の高さでさまざまなレベルの質問や情報を共有できるように、研修の方法を変えていく必要がある。</p> <p>○プロジェクトE事業において国の方針が出た段階から、この数年間、順序よく準備を行い、取り組みを進めてきたため、事業の一つの要素として、組織的かつ計画的に進められていると評価できる。その中で、中核的な推進者も各学校で育ってきていると考えられる。</p> <p>○みやわかアフタースクールは非常に多くの参加人数を誇り、着実に地に足をつけてきたと評価している。本人は望んでいないものの、保護者の協力を得ることで参加人数が増加し、こうした子供たちの着実な取り組みが保護者にとっても啓発の機会になると思う。</p> <p>○教育相談体制では、スクールカウンセラー等の相談件数が目標値の2倍近くに達し、教員からの相談も多い。子供と直接関わる教員がいち早くスクールカウンセラーに相談でき、子供の理解や保護者対応等、教員が専門的な指導を受ける環境が整っていることは評価できる。引き続き、教育委員会として学校との連携を図り、案件の重要度に応じて、問題への早期対応に取り組んでいただきたい。</p> <p>○適応指導教室が全校で実施されており、児童の登校回数が増加したため、学級に戻る回数も増えてきている。その成功事案の要因を見える化し、事績を残して欲しい。</p> <p>○調べる学習コンクールについて、自主的な参加を求める事業にすることで、子供たちの自主性を重視していることは評価できる。危惧すべきことは、「調べる学習」において学校の教員と社会教育課が連携をせずに進めると、事業の衰退も考えられることから、「調べる学習」が生かせそうな単元において、学校の中で出前授業を夏休み前に行い、夏休み期間に学習コンクールが実施出来る旨を子どもたちに提示するような段階を組んでいくことも検討していただきたい。</p> <p>○給食費の無償化について、国の今後の動向も踏まえ、継続して実施してほしい。</p>

<p>取組・事業の状況</p>	<p>○市の文化財の保存や、活用に関わる事業が散りばめられており、その取り組みは子供たちの郷土愛に繋がることから、生涯学習、学校だけで育てるのではなく地域で育てる取り組みにもなっていくため、今後も継続して対応いただきたい。</p> <p>○宮若市の令和５年度の有害鳥獣被害の状況を踏まえると、クマの出現はないが、イノシシ、シカ、猿等に遭遇すると危険が伴い、小学校のすぐ裏手で出現するため、子供たちに危害が及ばないように指導をお願いします。</p> <p>○人権講演会や人権問題地域懇談会等の参加者が、他市町村でも減少傾向にあることから、人権への関心の低さを物語っているのではないかと危惧している。</p> <p>○SNSに関する誹謗中傷の問題について、学校での取り組みを今後も継続していただきたい。</p> <p>○長時間のスマホやタブレットの使用により、子供たちの視力の低下や生活習慣の乱れが懸念されるため、学校と家庭が連携して対策や対応を検討していただきたい。</p> <p>○Windows 10のOSサポートに伴う端末機器の変更等是对应済みとのことだが、校内のWi-Fi環境は年数が経つと非常に劣化するため、速度調査を進め、環境の更新を検討してほしい。</p>
-----------------	--

令和 6 年度 教育委員会点検及び評価表 (宮若市教育委員会)

教育委員会の開催状況

定例教育委員会	<p>開催回数： <u>12</u>回</p> <p>議決事項： <u>6</u>件</p> <p>【内訳】</p> <p>条例・規則等 <u>6</u>件、予算案 <u> </u>件</p> <p>方針・計画等 <u> </u>件、人事案件 <u> </u>件</p> <p>委員等の任命・委嘱 <u>9</u>件、</p> <p>その他 <u> </u>件</p> <p>協議事項： <u>5</u>件（人事案件等）</p> <p>報告事項： <u>30</u>件（予算関係等）</p> <p>【研修等委員会協議活動以外の内訳】</p> <table><tr><th>内 容</th><th>実施回（日）数</th></tr><tr><td>小中学校訪問</td><td>3</td></tr><tr><td>入 園 ・ 卒 園 、 入 学 ・ 卒 業 、 運 動 会 、 発 表 会 、 文 化 祭 等</td><td>6</td></tr><tr><td>学校開放事業（E ウィーク）</td><td>0</td></tr><tr><td>学校経営説明会</td><td>6</td></tr></table>	内 容	実施回（日）数	小中学校訪問	3	入 園 ・ 卒 園 、 入 学 ・ 卒 業 、 運 動 会 、 発 表 会 、 文 化 祭 等	6	学校開放事業（E ウィーク）	0	学校経営説明会	6	<p>（評価・課題等）</p> <p>本市の教育委員の構成は、住職、学習塾経営、保護者代表、教育関係者であり、性別は男性2人、女性2人となっている。欠員がでることなく4名で実施した。</p> <p>教育委員会会議については、毎月の定例会と必要に応じ臨時会を開催し、開催日時は毎回協議の上全員が出席できるよう可能な限り調整して開催した。</p> <p>教育施策などの重要案件や規則改正、懸案事項等についてだけでなく、些細なことでも積極的に質問や意見交換を行った。</p>
内 容	実施回（日）数											
小中学校訪問	3											
入 園 ・ 卒 園 、 入 学 ・ 卒 業 、 運 動 会 、 発 表 会 、 文 化 祭 等	6											
学校開放事業（E ウィーク）	0											
学校経営説明会	6											
臨時教育委員会	<p>令和7年3月 第1回臨時教育委員会</p> <p>開催理由：①教職員の人事について</p> <p>令和7年3月 第2回臨時教育委員会</p> <p>開催理由：①議決議案1件</p> <p>②同意議案1件</p> <p>③報告事項1件</p>	<p>（評価・課題等）</p> <p>教職員及び教育委員会事務局職員の異動の報告や、防犯カメラの稼働に伴う要綱の改正等について協議した。</p>										

事業の区分

学校教育の充実

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 学力向上プロジェクトE事業の推進	<p>(関連予算額 30,790千円)</p> <p>プロジェクトE推進計画をもとに、4部会を軸とした取組を行った。学力向上部会では、各種学力検査の結果の分析をもとに学力の定着状況を確実に把握し、共有・検証を行った。情報教育部会では、授業におけるICT機器の活用促進に向けた情報共有や実践事例をもとにした協議を行った。これらの取組は、教員の授業改善推進の一助となった。</p> <p>「みやわかアフター・スクール」「MUSUBU スクールみやわか」は、民間委託により実施し、放課後の学習機会を提供した。その結果、学習内容や学習習慣の定着、学習意欲の向上が見られた。今後も内容充実と地域と協働した運営体制の整備が必要である。</p>
② 教育相談体制の推進	<p>(関連予算額 9,630千円)</p> <p>SSWを常勤配置、SCを2名、教育相談員、学習相談員を2名配置し、教育委員会や学校と連携しながら、迅速且つ個に応じた相談支援を行う体制の充実を図った。</p> <p>その結果、支援が必要な児童生徒の状況にいち早く気付けるようになり早期対応に繋がった。今後も引き続き児童生徒や保護者への教育相談体制の充実に努める必要がある。</p>
③ 特別支援教育の推進	<p>(関連予算額 31,969千円)</p> <p>宮若市特別支援教育連携協議会をはじめ、3つの専門部会及び全体研修会を実施した。特別に支援を要する児童生徒への適切な対応を目的とした関係機関の支援体制を構築することができた。</p> <p>今後も特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実とスムーズな就学に向けた保幼小中の連携を推進するとともに、特別支援教育に係る教員の資質の向上に取り組む。</p>
④ 国際理解教育の推進	<p>(関連予算額 21,846千円)</p> <p>小学校における外国語科の学習では、担任とALTが役割分担をしたり、ICT機器を効果的に活用したりしながら、主体的・対話的で深い学びをめざした授業が定着してきた。</p> <p>中学校においては、上記の授業内容と併せて、県教委主催の英語スピーチコンテストに向けて、ALTの支援を受けながら校内選考や文化祭における発表を行った。その結果、生徒の英語に対する興味関心を高めることに繋がった。</p>
⑤ 情報教育の推進	<p>(関連予算額 58,418千円)</p> <p>児童生徒用タブレット端末のさらなる活用のため、セキュリティソフトや学習ソフトをより良いものに変更し、ICT支援員を活用して授業力向上のためのICT活用支援を行った。</p> <p>今後も引き続き、ICT機器を活用した授業力向上の取組や家庭学習における活用促進の検討を進めて参りたい。</p>

《 指 標 》

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
②教育相談体制の推進	SC による相談の件数	954件	500件	○
③特別支援教育の充実	実態に応じた支援員の配置	16名	16名	
④国際理解教育の推進	ALT の配置	小 3名 中 2名	小 3名 中 2名	
⑤情報教育の推進	ICT支援員による研修	年6回	年3回	

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

学校教育の充実

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 教育施設環境の整備	<p>(関連予算額 57,545千円)</p> <p>・宮若東中学校武道場空調整備工事 宮若東中学校武道場において、使用頻度等の観点から空調を設置していなかったが、近年の酷暑や避難所に指定されていることを考慮し、整備することとした。</p>

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
				◎

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

学校教育の充実

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 安心・安全な学校給食と食育の推進	<p>(関連予算額 3,909 千円)</p> <p>地産地消の取り組みとして、宮若産おいしいお米コンクールにおいて、金賞受賞米を月 1 回の給食に取り入れ、牛肉に関しても、高野地区の森下哲次牧場より、年に2回の宮若牛を使用した給食を実施し、給食時間を通して児童生徒へ食育の推進を図った。</p>

※説明資料等あれば挿入

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
地産地消の推進 (予算設定)	宮若米の使用目標量に対する宮若米の現状値	2,310kg	2,310kg	○
	宮若牛の使用目標量に対する宮若牛の現状値	228kg	228kg	○
地産地消の推進 (食材率)	食材全体に占める地産食材目標 %	33.76%	30%	○

事業の区分

生涯学習の推進

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 生涯学習センター事業 ・図書の購入 ・ブックスタート事業 ・学校図書館との連携事業 ・図書館ボランティアの活動支援 ・おはなし会の実施 ・図書館新聞の発行 ・レファレンスサービスの実施 ・企画展示 ・新刊案内の発行 ・本旅の実施 ・図書館便の実施 ・家読の推進 ・調べる学習コンクールの実施 ・「第3次子どもの読書活動推進計画」策定	(関連予算額 22,558千円) ・ふるさと納税寄付金のうち150万円を児童図書購入費として活用し、蔵書の充実に努めている。 ・子どもの読書活動の充実と定着に努めるため、保健センターパレットと連携し、健診の際に絵本や図書館の利用案内等一式をお渡しするブックスタート事業をはじめ、小学生読書リーダー養成講座、貸出文庫、学習支援ブックバック、POPの募集・展示などを実施した。 ・コロナ禍以降、「おはなし会」の来場者が減少しており、周知方法の見直し等、課題について検討している。 ・図書館来館者数は前年より増加しているが、図書の貸出冊数が前年より減少している。原因を精査し、今後の方策について検討する必要がある。 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」を実施し、16名の作品応募があった。 ・令和7～11年度の5年間を計画期間とする「第3次子どもの読書活動推進計画」を策定した。学校連携等を推進することで子どもの読書活動の促進・定着を図っていく。
② 子育て支援・家庭教育事業	(関連予算額 793千円) 令和6年度は、子育てサロン(鞍手竜徳高校)を14回実施した。幼小中学校における家庭教育講座は幼稚園2園で開催した。リフレッシュ講座や食育講座等の家庭教育講座は、延べ92名の参加があった。
③ 高齢者大学	(関連予算額 921千円) 高齢者の生きがいづくりのため、高齢者大学として、教養講座やカラダよかトレ、らくらく運動、折り紙、初めてのスマホ、ペン習字・筆ペンの講座を実施した。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標	現状値	目標値	達成状況
① 生涯学習センター事業 ② 子育て支援・家庭教育事業	生涯学習講座参加人数(年間)	164人	170人	△
	図書の年間貸出冊数(年間)	101, 672冊	169, 000冊	△
	ボランティア団体への支援件数(年間)	60件	65件	△
③ 高齢者大学	高齢者大学の参加者数(年間)	1, 769人	1, 320人	◎

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

青少年の健全育成

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 青少年育成事業 ・はたちのつどい ・サマーチャレンジ、スプリングチャレンジ ・七夕席上揮毫会 ・リコリス子どもまつり ・少年の主張大会 ・学校週5日制事業「わいわいサークル」	(関連予算額 3,226千円) ・20歳を迎える有志により発足した実行委員会を中心に「はたちのつどい」を実施した。これまでの小学校に選出をお願いしていた弟妹代表による「はげましのことば」を、中高生による公募制とした。 ・異学年交流を目的とした体験学習である「サマーチャレンジ」「スプリングチャレンジ」の応募者が定員を上回っていることから、なるべく多くの応募者を受け入れるため、定員や開催回数を増やして事業実施した。「スプリングチャレンジ」では、コロナ禍以降初めて、市内企業への社会見学を実施した。 ・「リコリス子どもまつり」は多くのボランティアや関係団体の協力のもと、昨年を上回る2,200名の来場者があった。 ・「わいわいサークル」は、コロナ禍以降参加者が減少していたが、令和6年度分からの参加対象や費用負担の見直しを行った。
② 環境浄化の推進 ・有害図書等に関する環境浄化活動 ・街頭指導	関連予算額 10千円) ・関係機関等と連携し、有害図書類に関する立入調査を実施した。 ・令和6年度は、青少年育成市民会議の構成団体を中心に、花火大会及び2年に1度開催される放生会の街頭啓発を行った。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 青少年育成事業	体験学習の充実	245人	200人	◎
	青少年育成活動の参加者数	2, 282人	1, 800人	◎

※ 目標を完全に達成できた ◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた ○

目標達成には取組の強化が必要 △

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要 ×

事業の区分

芸術文化活動の充実

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 芸術文化各事業の実施 ・文化連盟への助成 ・リコリスエントランスコンサート ・地域住民のためのコンサート ・宮若市文化祭	(関連予算額 2,659千円) ・市民及び市内文化団体の日頃の芸術、文化活動の成果の発表の場として宮若市文化祭を開催し、昨年を上回る3,084名の来場者があった。 ・昨年好評だった精華女子高等学校吹奏楽部による地域住民のためのコンサートを、内容を拡大して宮若東中学校体育館を会場として開催した。来場者は505名となった。 ・リコリスエントランスコンサートを4回開催し、444名の来場者があり、ライブ配信では980名の視聴があった。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 芸術文化各事業の実施	芸術文化イベント参加者数(年間)	4, 033人	2, 080人	◎
	文化連盟参加団体数	60団体	64団体	○

※ 目標を完全に達成できた ◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた ○

目標達成には取組の強化が必要 △

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要 ×

事業の区分

文化財の保護・継承

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 市の歴史や文化の継承・普及 ・埋蔵文化財発掘調査の実施 ・文化連盟と共催で歴史探訪の開催 ・竹原古墳の公開 ・出前歴史講座の開催 ・文化財保護ボランティア講座の開催 ・宮若トレッジでの企画展 ・トレジャーラリーの開催	(関連予算額 3,762千円) ・「牛谷古墳」の発掘調査及び調査報告書を作成 ・春、秋開催の竹原古墳の無料公開を実施。見学者数:384人 ・各施設来館者数 宮若トレッジ:3,265人、竹原古墳:2,285人、石炭記念館:1,856人 ・宮若トレッジにて、夏休み期間に併せ企画展「はたらくミニカー展」を開催した ・宮若トレッジ・竹原古墳・石炭記念館を巡る「みやわかトレジャーラリー」を実施。参加者数:180人
② 石炭文化の継承 ・石炭イベントの実施 ・石炭記念館での企画展 ・貝島百合野山荘の今後の活用等についての調査研究	(関連予算額 8千円) ・リコリス子どもまつりとあわせ、石炭イベント「炭坑たんけん迷路がやってくる」を開催した。 ・石炭記念館にて企画展「我がふる里の昔を知る」を開催した(隔年実施) ・貝島家住宅について所有者と検討課題について協議を行った。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 市の歴史や文化の継承・普及	竹原古墳年間観覧者数(年間)	2, 285人	1, 900人	◎
	宮若トレッジ来館者数(年間)	3, 265人	3, 700人	△
	ボランティア養成講座参加者数(年間)	30人	50人	△
② 石炭文化の継承	石炭記念館来館者数(年間)	1, 856人	1, 580人	◎

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

人権尊重社会の構築

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
	(関連予算額 3,501千円)
○人権教育・啓発事業 ・街頭啓発 ・講演会 ・地域懇談会 ・人権子ども会 ○人権啓発冊子及びカレンダーの作成 ・人権ポスターの募集 ○関係機関と連携した教育啓発事業 ・課題別研修会 ・講演会、学習会等	・同和問題啓発強調月間街頭啓発は、集客が多い休日の午前中に市内5ヶ所の民間施設周辺で実施した。 ・同和問題啓発強調月間人権講演会を開催、103名の参加があった。 ・人権問題地域懇談会は職員地域担当制を活用した自治会長会の3ブロックと共催して開催した。予定していた秋頃の開催が叶わず2月の開催となり、市内3会場で177名の参加となった。(4会場を予定していたが、1会場は荒天のため中止) ・市内小中学生を対象に人権ポスターを募集、優秀作品を掲載した人権カレンダーを作成し、人権啓発冊子とともに市内全戸配布した。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
人権教育・啓発事業	人権講演会参加者数(年間)	255人	360人	△
	人権問題地域懇談会参加者数(年間)	177人	470人	△

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

スポーツの推進

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① スポーツフェスタ等各種スポーツ大会・教室の開催	(関連予算額 1,088千円) スポーツフェスタについては、教育委員会・スポーツ推進委員会・体育協会・総合型スポーツクラブ・老人クラブ連合会のそれぞれが実施主体となり分散型で14種目を実施した。 スポーツ教室については、陸上教室、サッカー教室を実施した。新たにバレーボール教室を予定していたが、荒天により中止した。
② 総合型スポーツクラブの育成	(関連予算額 0千円) 令和6年度会員数169名、事業を実施し、延べ2,771名の参加を得ており、市民のスポーツ活動の一環として根付いている。前年度と比較すると、会員数及び参加延べ人数は微減となっており、会員数増加に向けた事業展開が重要となる。
③ 体育協会の育成(補助金)	(関連予算額 1,840千円) 体育協会は、市民の自発的なスポーツ活動の振興及び普及を図り、スポーツを通して市民の健康で活力のある豊かな生活の創造に資することを目的に活動を行っている。自主運営組織としての更なる強化が課題となる。(14団体)
④ スポーツ少年団の育成(補助金)	(関連予算額 900千円) スポーツ少年団は、青少年の健全な心身の育成を図ることを目的に活動を行っている。団員増加に向けた取り組みが課題となる。(20団体)

※説明資料等あれば挿入

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① スポーツフェスタ等各種スポーツ大会・教室の開催	スポーツフェスタの参加者数（年間）	1,560 人	1,800 人	△
② 総合型スポーツクラブの育成	宮若いきいきスポーツクラブ参加者数（年間）	2,771 人	1,330 人	◎